

4 基本目標

将来像や道路関連の課題等をふまえた上で、以下を基本目標とします。

つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり

考え方

人口減少・高齢化や社会の広域化・国際化等の課題を、限られた予算の中で解決するためには、道路を「つなぐ」だけではなく、命や暮らしを「まもる」こと、道路を地域づくりへ「いかす」ことが求められています。

今後はこの3要素をバランスよく進めていくことが重要であるため、上記を本ビジョンの基本目標とします。

5 基本方針

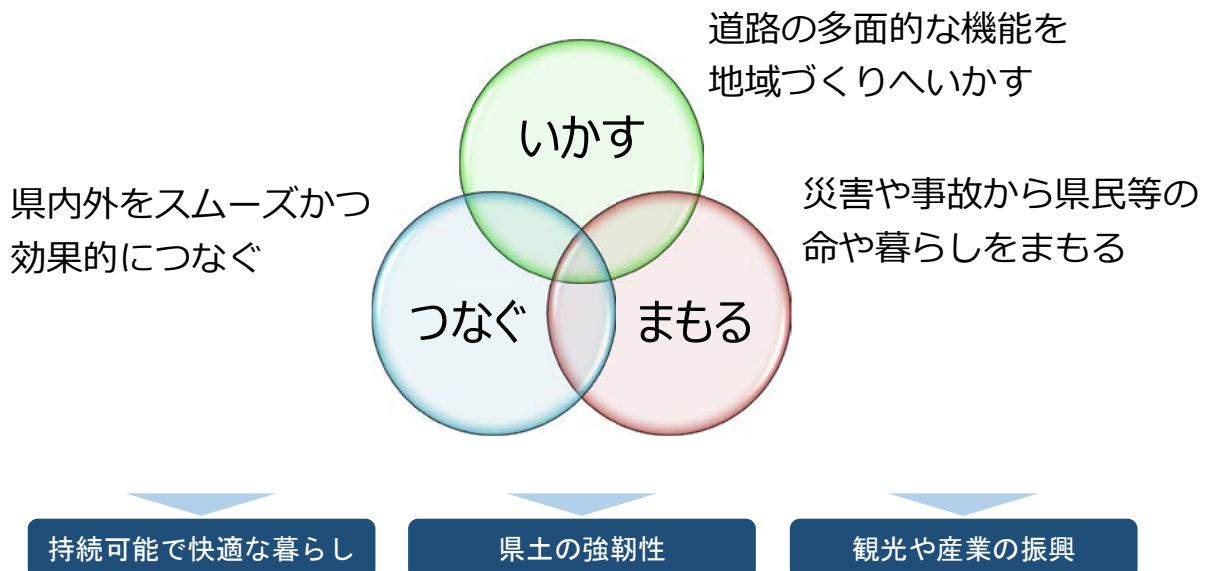
本ビジョンの基本方針は以下3つとし、重点分野等を進める際に、それぞれの方針を反映させるものとします。

3つの基本方針

「つなぐ」県内外をスムーズかつ効果的につなぐ

「まもる」災害や事故から県民等の命や暮らしをまもる

「いかす」道路の多面的な機能を地域づくりへいかす



重点分野の抽出

信州みちビジョン検討委員会における議論のほか、アンケートや意見交換会での県民意見及び長野県の特性等をふまえ、上記3点を重点分野として抽出しました。(内容の詳細は「6 重点分野」参照)

つなぐ

● 県内外をスムーズかつ効果的につなぐ

情報技術等を活用し、車種・季節別等の利用状況を把握した効果的な計画を立てるとともに、生産性の向上を図る ICT*1 施工などにより事業実施の効率化を進めます。

- ▷ 道路の役割に応じたネットワークの構築*2
- ▷ 自動車中心の道路網から多様な利用者重視の道路網へ
- ▷ 平常時の総交通量に加え観光時期や救急車両等の特定交通も重視へ
- ▷ 情報技術等を活用した効果的な事業の実施

● 県土の骨格となる高規格幹線道路の例



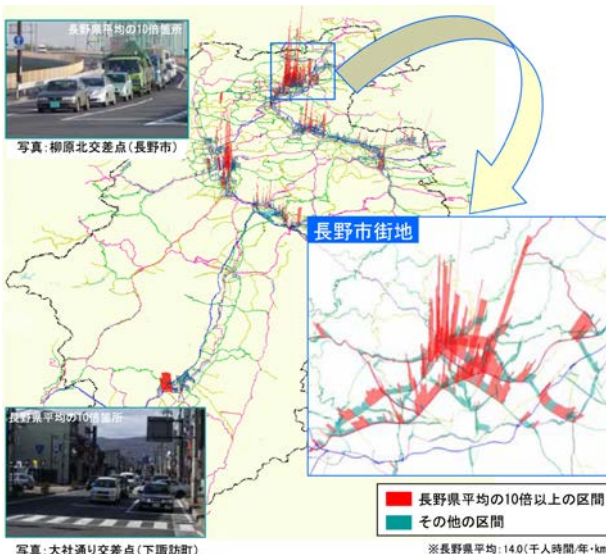
中部横断自動車道
出典：長野県「長野県新総合交通ビジョン」

● 多様な利用者が通る道路の例



出典：「諏訪湖周サイクリングロード基本計画」

● 情報技術を活用した渋滞状況の把握例



出典：国土交通省 HP

● ICT 活用工事の例(マシンガイダンス掘削工事)



出典：長野県建設部

*1:「ICT」情報や通信に関する技術の総称

*2: 県土の骨格となる幹線道路や、地域内の移動利用が主体の生活道路など、各道路の役割を明確化した上で道路ネットワークの構築を推進

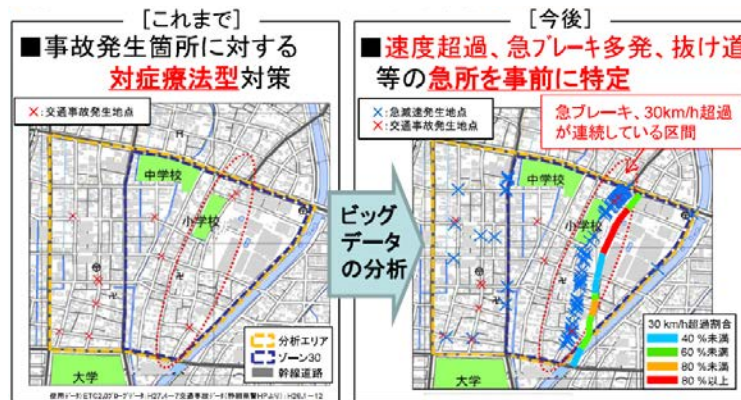
まもる

災害や事故から県民等の命や暮らしをまもる

災害に強いまちづくりを進めるほか、
対症療法型ではなく予防保全型の維持管理や事故対策に努めます。

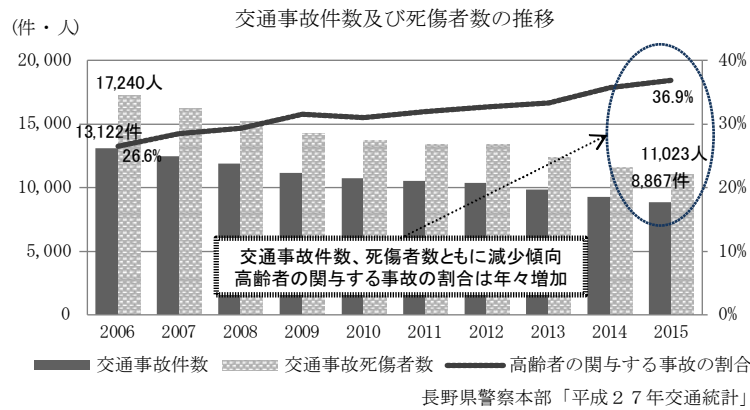
- ▷ 高度情報化に伴う安全レベルの向上
- ▷ 交通弱者や災害時要援護者（高齢者等）増加への配慮強化
- ▷ 想定以上の事象も考慮した被害を低減する方策の検討

● ビッグデータを活用した事故対策のイメージ



出典：国土交通省 HP

● 高齢者関与の事故割合の状況



出典：長野県総合計画審議会 資料

● 道路区域外から落石等危険の恐れがある道路法面の調査イメージ



いかす

● 道路の多面的な機能等を地域づくりへいかす

道路の通行機能に加え、たまり機能*1や道路からの景観など、道路の持つ多面的な機能等を地域づくりへ活かしていきます。

- ▷ 通行機能重視から、たまり機能や景観形成のための環境空間機能、上下水道や通信機器等の収容空間機能などの多面的機能も重視
- ▷ 既存道路や情報技術(広報含む)の活用を推進
- ▷ 自然環境や地域資源などを損なわずに活用を推進
- ▷ 県民の声や県民の力の道路行政への反映を推進

● 道路でのイベント例

(県道 清野篠ノ井(停)線 長野市 篠ノ井駅前
歩行者天国による軽トラ市開催)



● 自然環境に配慮した事業例

(国道 292 号 山ノ内町オリンピック道路志賀ルート
植生回復への配慮等)



写真提供:大日本コンサルタント㈱

● アダプトシステム*2の例

(国道 403 号 須坂市 春木町)



*1:「たまり機能」市街地や観光地などで、歩行者等が滞留(集い・立ち止まること)するための機能

*2:「アダプトシステム」地域住民団体等が道路管理者と協定を取り交わし、ボランティアで歩道、植樹帯の美化活動等を行う制度